

Paddy and Water Environment 誌の現状と今後の展望

The status quo and perspectives of Paddy and Water Environment journal

飯田俊彰

Toshiaki IIDA

1. はじめに

Paddy and Water Environmentは、2003年の創刊以降、一流英文誌の発刊、インパクトファクター(IF)の取得と向上、モンスーンアジアの水田農業研究の成果の世界への情報発信を目指し、農業農村工学会のサポートを得て発刊されてきた。現在は、Springer社が発刊する国際誌として一定の評価と位置付けを得ている¹⁾。日本側の編集体制が大きく刷新されて3期6年を経て、新たに編集体制が刷新され、2022年7月に増本前委員長からEditor-in-Chiefを引き継いだ。またChief Managing Editorには新たにNational Taiwan UniversityのChihhao Fan氏が就任し、日本、台湾、韓国の3カ国の編集委員も再編成された。本稿では、本誌の現状を報告するとともに今後を展望する。

2. 本誌の発刊と評価の現状

2.1 掲載論文数 本誌は、創刊から2022年までの20年間に年間4号で20巻を発刊した。2022年には第20巻の1~4号が発刊され、35報の論文が掲載された。その内訳は、Articleが31報、Correctionが2報、Reviewが1報、Short communicationsが1報だった。一方、2022年の本誌への総投稿数は185報で、その内訳は、Articleが164報、Reviewが12報、Short communicationsが5報、Technical reportが4報だった。総投稿数は直近4年間に連続

して減少しており、2022年には、2019年と比べて28%減少した(Table 1)。投稿された論文の筆頭著者の所属国は全世界に及び、投稿が多い国の上位5カ国は多い順にインド、中国、イラン、日本、トルコだった。掲載可となった論文の筆頭著者の所属国の上位5カ国は多い順に中国、日本、イラン、インド、バングラデシュだった。

2.2 査読プロセス

Table 1に示す通り、2022年の本誌への総投稿数は185報であり、同年に査読結果が出た論文数は132報だった。うち、Acceptが32

Table 1 投稿状況と採否決定までの日数

Table 1 Submissions and days to decision

Year	2018	2019	2020	2021	2022
Total Submitted	236	256	230	190	185
Total Decided	214	248	209	186	132
Accept	57	42	49	48	32
Reject	157	206	160	138	100
Acceptance Rate (%)	27	17	23	26	24
Average Days to First Decision (By f.d.d.*) (d)	75	49	56	66	54
Average Days to Final Disposition Accept (By f.d.d.*) (d)	282	295	236	224	210
Average Days to Final Disposition Reject (By f.d.d.*) (d)	63	36	48	53	37

*f.d.d.: final decision date

岩手大学農学部 Faculty of Agriculture, Iwate University

キーワード: PAWE, 掲載論文, 査読プロセス, インパクトファクター

報, Rejectが100報で, 採択率は24.2%だった. 過去5年間の平均の採択率は23.1%(228/989)で, 2022年には平年並みの採択率だった. 投稿から判定までの日数を見ると, 2022年には全体の平均で54日を要し, Acceptの場合には平均で210日, Rejectの場合には37日かかった. 判定までの時間は2021年と比べて短縮されており, 特にRejectの場合には平均してほぼ1カ月と少しで結果が出るようになった. しかしながら, 2023年3月までの中間集計では, 判定までの時間は長くなっており, 引き続き, 査読やハンドリングの効率化, 迅速化を進める必要が有る.

2. 3 IF 本誌のIFは獲得年(2012年)の0.986から増減を繰り返し, 2015年には0.871に低下したが, 2019年以降の直近3年間には連続して漸増し, 2021年には1.554まで上昇した(Fig.1). 直近3年間には, Citable items(IF計算の分母)がほぼ一定であるのに対してCitations(IF計算の分子)が漸増していることが, IFの上昇に繋がった. IFによるランクは, 2021年には, Agricultural Engineeringカテゴリーでは14誌中の9番目, Agronomyカテゴリーでは90誌中の58番目で, 世界の類似分野の学術誌中で概ね中間に位置しており, この位置は最近5年間でほとんど変化していない. 年間の論文ダウンロード数は2021年には75,614件だった. 2022年6月までの中間集計では45,482件に達しており, 一貫して増加傾向にある(Fig.2). アジア大洋州からのアクセスが63%を占めており, 次いで, ヨーロッパ, 中東, 北米, アフリカ, 中南米と, 世界中からアクセスされている.

3. 略称の統一

本誌は一般にPWEと略称されるが, Springer社では略称としてPAWEが用いられている. 2つの略称の併存の解消を目指し, PWEの略称が用いられるようになった経緯を調査したところ, 慣例的に用いられてきたもので, 正式に決められたものではないことが判明した. そこで, Springer社が用いているPAWEに統一することが提案され, 2022年11月17日の福岡大会中に開催されたBoard Meetingで, 今後はPAWEを用いることとなった.

4. おわりに

前期からの体制を踏襲して編集作業を進めているが, 現状として, IFは漸増し, ダウンロード数は増加しているものの, 投稿数の顕著な減少が指摘された. 本誌の魅力を高め, IFのさらなる向上を目指して, Review paper, 特集号などの企画, 毎号へのEditorialの復活, Invited papersの検討等が必要と思われる.

引用文献

1) 増本隆夫, 飯田俊彰(2022):PWE (Paddy and Water Environment) 誌の6年間と今後の展望, 2022年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集, 635-636

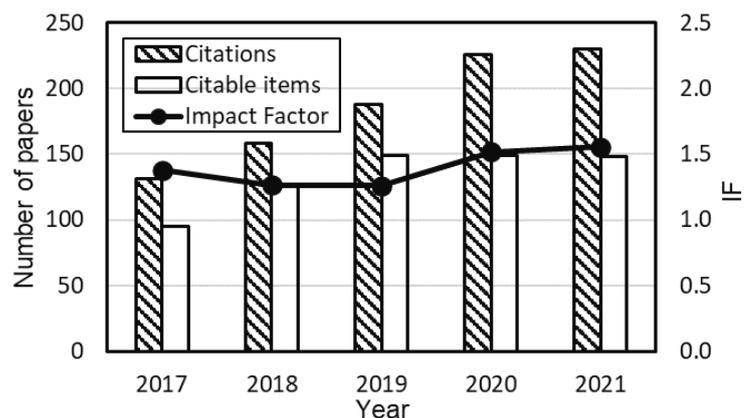


Fig.1 PAWEのImpact factor (IF)の推移
Fig.1 Changes in Impact factor of PAWE

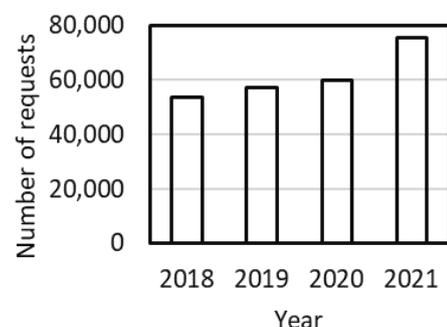


Fig.2 フルテキストの請求数
Fig.2 Full-text article requests